

神戸市立工業高等専門学校専攻科 学生員 ○田端 政伸
神戸市立工業高等専門学校 フェロー 橋本 渉一

1. はじめに

近年、我が国では高度成長期も過ぎ去り高層ビルが立ち並ぶ中、『こころ』が落ち着く空間、つまり『癒し』を求める声が多くなってきた。住居が密集した地域や、マンションに住む人たちにおいては、公園が庭的な存在となり、その癒し空間としての役割がますます重要になってきている。

また、阪神大震災時に公園は、避難所や、多くの仮設住宅の設置場所、火災の抑制箇所となり、公園機能の一つである防災機能の重要性が再確認された。一方、避難所では、人々の「助け合い」を通し、コミュニティの重要性も再認識させられた。このことから近年、コミュニティの形成に最も身近な公共施設として街区公園等が注目されるようになってきた。実際には、公園利用者数はそれぞれの公園によって著しく異なっている。

本研究では、表－1に示す公園のうち住民に最も身近で生活に隣接する街区公園及び、市民公園、街園、公共の開放型空間等の地域型小公園を対象とし、施設物及び配置、周りの立地条件、利用者人数等を調査し地域型小公園の有効性を検討することを目的とする。

表－1 公園総括表

2. 調査対象地および研究手法

2. 1 対象地

神戸市に公園は、1429箇所存在し、そのうち街区公園は、1096箇所存在¹⁾する。神戸市にある公園全体の3/4以上が、街区公園となっている。

基幹公園のうち、住民に最も身近な街区公園を主な調査対象の公園とし、小学校校区地域内の地域型小公園13箇所を対象地とした。

2. 2 対象公園

神戸市垂水区にある福田小学校校区における、街区公園9箇所、市民公園1箇所、街園1箇所、公共の開放型公園2箇所の表－2に示す計13箇所の公園を調査した。

2. 3 研究手法

神戸市垂水区福田小学校校区を中心とした地域型小公園13箇所を計6回巡回し利用者人数を調査した。その結果を公園評価の指標とし、公園の境界面による分類、公園内の設置施設を用いて分析した。

3. 調査対象地の利用状況

利用者人数調査は、全て平日の2002年11月6日午後5時、11月9日午前10時、11月20日午前11時半、12月2日午後3時、12月2日午後5時、12月9日午後4時の計6回において行い、結果を表－3に示す。天候はいずれも晴れであった。

①大町公園は、利用者人数が83人と最も多く、2番目の⑦流田公園（下）40人の2倍近い利用者人数となった。また、④カタツムリ公園、⑨福田街園は、いずれも利用者が全く見られなかった。②市営住宅公園、③菅の口公園、⑫福田公園においても非常に低い利用者人数であった。

基幹公園	街区公園	最も住民に身近な公園誘致距離250mの範囲内で面積約0.25ha
	近隣公園	街区公園より大きい公園誘致距離500mの範囲内で面積約1～2ha 例：湯屋ヶ谷公園
	地区公園	主に徒歩で利用できる大きい公園誘致距離1kmの範囲内で面積約4ha 例：西神中央公園
	都市基幹公園	都市住民の総合的利用を目的とした公園都市規模に応じ面積約10～50ha 例：墨水健康公園
	運動公園	都市住民の主に運動を目的とした公園都市規模に応じ面積約15～75ha 例：総合運動公園
	特殊公園	歴史公園、風致公園、墓園等
	大規模公園	市町村間わす利用する公園 面積約50ha以上
	都市緑地	都市の環境保全、景観の向上のための緑地
	広場公園	主に商業地などの休憩としての公園
	街園	基本的に植栽中心の公園
	市民公園	市民が設置し、管理する公園的利用ができる都市空間

表—2 公園詳細表

公園名	面積(ha)	公園の種類	完成年又は修正年
① 大町公園	0.3	街区公園	S61.9.9
② 市営住宅公園	0.3	開放型空間	—
③ 菅の口公園	0.0774	街区公園	S57.3.31
④ カタツムリ公園	0.0486	市民公園	S57.2.9
⑤ 美山台中公園	0.0321	街区公園	S52.3.30
⑥ 流田公園(上)	0.195	街区公園	S56.7.31
⑦ 流田公園(下)	0.12	開放型空間	—
⑧ 福田西公園	0.0937	街区公園	H7.7.14
⑨ 福田街園	0.0224	街園	—
⑩ 向陽公園	0.07	街区公園	S61.9.9
⑪ 千鳥が丘東公園	0.1071	街区公園	H11.2.9
⑫ 福田公園	0.0806	街区公園	S56.7.31
⑬ 福田南公園	0.0598	街区公園	S61.9.9

表—3 利用者人数結果

公園 番号	11月6日午後 5時	11月6日午前 8時	11月20日 午前 1時半	12月2日午後 3時	12月2日午後 5時	12月9日午後 4時	総計
①	15	20	6	3	21	18	83
②	1	0	0	0	0	1	2
③	0	0	0	0	1	0	1
④	0	0	0	0	0	0	0
⑤	0	0	0	1	6	0	7
⑥	3	1	6	0	5	0	15
⑦	5	2	13	3	14	3	40
⑧	8	3	0	6	0	7	24
⑨	0	0	0	0	0	0	0
⑩	9	2	0	0	0	0	11
⑪	12	7	0	12	0	5	36
⑫	1	0	0	0	0	0	1
⑬	2	7	12	2	3	1	27

4. 境界面形態による公園分析

公園の境界面形態を2次元表示でモデル化し、表—4のように分類した。最も利用者人数が高い値を示した①大町公園は、唯一島国型となっており、全ての境界面が道路に接している。どこからでも公園内に入れる環境にあること、道路の全ての面が接している。外から公園の中が見渡せることが利用者人数において高い値を示したと思われる。また、利用者人数が低い値となった②カタツムリ公園、③市営住宅公園は、内陸型となっており、境界面が道路と接しておらず、外から公園の中の様子が伺いにくいこと、囲まれていることにより何らかの心理的影響があるものと思われる。利用者人数で低い値になったものと思われる。

表—4 2次元境界面モデル分類

島国型	内陸型	鉋型
境界面全面が道路に面している	出入り口を除いて、境界面全面が建物及び施設に隣接している	境界面一面のみ建物及び施設に隣接している
①	②、④	③、⑤
鉋み込まれ型	コーナー型	貫通型
境界面一面のみ道路に面している	敷地の隅角部に位置している	敷地を貫通し、両端面が道路に面している
⑪	⑥、⑦、⑩、⑨、⑬	⑧、⑫

5. 公園設置施設による分析

公園の設置施設を表—5に示した。利用者人数の値が1番目、2番目に高い値になった①大町公園⑦流田公園(下)には、いずれも運動広場があり、この運動広場の存在が利用者を集める効果を有しているものと考えられる。ベンチ数と公園利用者数との相関は小さい。公園の利用動機は、ベンチの存在が深くは関係していないと考えられる。

表—5 設置施設一覧表

公園 番号	遊戯 スペース シロ	砂場	鉄棒	動物 遊具	木製 遊具	総合 遊具	複合 遊具	運動 広場	運動 場	水香台	ベン チ	シェ ル	スウ ル	バー ゴラ
①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10	1	
②	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4		
③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7	1	1
④	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2		
⑤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
⑥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4		2
⑦	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
⑧	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3	1	4
⑨	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1		
⑩	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10	1	
⑪	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7		1
⑫	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3		
⑬	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1	4

6. まとめ

街区公園等の地域型小公園の利用状況を調査し、以下のことが明らかになった。①運動広場の有無と、利用者人数には相関が見られた。②公園完成年の新旧は、利用者にとって公園の主な選択要因になりえない。③境界面が多いほど、利用者によく利用される傾向が見られた。④地域型小公園では、平日の利用者の約3/5を小学生が占め利用の中心となっている。

参考文献

1) 神戸市建設局公園砂防部：神戸市の公園・街路樹概要，2001